着用品番／**スクラブ CHM355**（P.083）・**スクラブ CHM354**（P.089）・**パンツ CHM151**（P.101）
スクラブ CHM855（P.083）・**スクラブ CHM854**（P.090）・**パンツ CHM651**（P.101）

ユニフォーム選びは、院内の一大イベント！
リニューアルで会話が増え、病棟も明るい雰囲気に。

地域の認知症医療を牽引するフロントランナー。

埼玉県狭山市にある「あさひ病院」は、認知症診療に特化した、高齢者のための精神科病院。「信頼と愛とで築く地域医療」を理念に掲げ、医師・看護師・介護士・作業療法士・精神保健福祉士などの多職種チームで、認知症の早期診断からリハビリ、終末期医療まで対応しています。300床の入院施設を備え、2019年の認知症新規患者数の受け入れは埼玉県内で最多※。2015年より県の「認知症疾患医療センター」にも指定され、専門医療相談や認知症サポーター養成講座の実施など、地域における認知症診療の中核的役割も担っています。

※2020年5月25日読売新聞「病院の実力」

看護主任 中島さん　看護主任 小野寺さん　看護部長 山口さん

4年に一度のユニフォーム選びは「重要イベント」。

「あさひ病院」のユニフォーム切り替えは、4年に一度。選定の経緯や基準などについて、山口看護部長と、4名の看護主任の皆さんにお話しを伺いました。今回のユニフォームは、山口看護部長の「自分たちが好きなものを着られるように」との思いから、全員投票という方式で選ばれました。「4年に一度の切り替えはスタッフにとってかなり重要なイベント。流行やデザイン、機能などを考慮して選びました」と、看護主任の濱崎さんは語ります。ユニフォームの選定は、まず6病棟それぞれがカタログから上位3位までをセレクト。その中から価格や機能面で条件に合わないものを外し、残った3～4着のサンプルを取り寄せました。「試着もしましたし、現物を見て、触って、検討しました」と山口看護部長。その結果、投票で選ばれたのが看護職、介護職ともにアシックスのユニフォームでした。

全員投票で、アシックスが選ばれた理由とは。

看護職・介護職ともに採用されたアシックスのユニフォーム。その理由について伺うと、吉田さんは「サッカーをしていたので、アシックスはよく着ていてなじみがありました。スポーティでかっこいいですよね」と、スポーツブランドとしての信頼感を評価。「“本気ならアシックス”って言うじゃないですか」とCMのフレーズを例に出す中島さんもアシックス推しと、総じて男性人気が高かったそうです。対して、「メーカーやブランドは特に気にしませんでした」と小野寺さん。ベンチレーションなどムレを軽減させる機能や、配色によるメリハリなど、着心地やデザインを重視されました。そのほか皆さんのご意見を伺うと、スポーツブランドへの期待感とユニフォームとしての機能を追求した結果、選ばれたのがアシックスのユニフォームということでした。

ユニフォームを変えたことで、職場にも変化が。

ユニフォーム切り替えから約1カ月、実際に着てみた感想はどうなのでしょうか。「スポーティすぎるかなと思ったのですが、着てみると、白衣らしい雰囲気がありますね」と濱崎さん。山口看護部長も「動きやすさだけでなく、白衣としてのきちんと感があるところも、選んだポイントでした」と評価します。「汗をかいても、すぐに乾くんですよ。ベタっと重い感じにならないので、夜勤の時も快適ですね」と、涼しさを実感しているのは吉田さん。汗をかくことが多いお仕事だけに、軽さや涼しさは重要とのことでした。また、吉田さんと小野寺さんは、ユニフォームによって職員同士の会話が増えたと言います。「色が選べるようになって、この組み合わせどう？とか、こんな着方もいいよね！とか、みんなでワイワイしてますね」「ベテランの職員さんも、最初は『こんな若い色、着れないよ』なんて言うんですけど、着てみたらまんざらでもないというか（笑）。みんなで盛り上がって、共通の話題が増えました。コミュニケーションのきっかけにもなるので、制服って大事だなと思いましたね」。患者さんの反応もよく、病棟も明るくなったと山口看護部長。ほかにも、皆さんから現場ならではのご意見をたくさんいただき、大変ありがたい取材となりました。お忙しいなかご協力をいただき、本当にありがとうございました。

看護主任 吉田さん　看護主任 濱崎さん

認知症診療の知見やノウハウを、より地域に開いていく。

認知症の患者さんは全国に600万人。これからさらに増えるといわれ、認知症医療の需要はますます高まると思います。その中で、認知症医療に特化した「あさひ病院」の役割は、院内にとどまりません。「認知症疾患医療センター」として、これまで以上に地域に出ていかなければならないと考えています。コロナ禍で休止している認知症サポーター養成講座を再開することもそうですし、講座を開講できる職員の育成も急務です。また、新オレンジプランの啓発活動や、ほかの医療機関に向けた勉強会なども行っていきたいと思います。自治体とも連携しながら、地域の認知症診療を支えていくことが、私たちの使命だと考えています。

看護部長　山口 さとみさん

〒350-1317
埼玉県狭山市大字水野592番地
あさひ病院
認知症疾患医療センター
https://asahi-hosp.jp/

※新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、取材撮影を行いました。